鉄砲洲神社　素読論語　解説
（平成 23 年 10 月 21 日）

子罕第九

1　子 罕に利を言う。命と与にし、仁と与にす。

孔子は滅多に「利」について言わないけれども、珍しく「利」について話しています。孔子が利について話す時は、運命や仁徳に関連した話を、話す時ぐらいしかないと云う事です。

利益の利と云うものは、まず言わない人だったようです。ただ「利によりて行えば怨多し」など、時々「利」について言いますけれど、利欲を全面におし出すのはいけないと云う事を、形を変えて話をしています。

2　達巷党の人曰く、大なるかな孔子、博く学びて名を成す所無しと。子 之を聞きて、門弟子に謂いて曰く、吾　何をか執らんか、御を執らんか、射を執らんか。吾は御を執らんと。

達巷は地名です。党は家の一団、部落です。五百家の人が集まる部落一団。

達巷地域に住む人達が言うには、孔子と云う人は偉大な人、多く学んでいて何でも出来ない事はないのに、意識的に名前を出さないようにしている。孔子がこれを聞いて門弟達に言うのは、（珍しく孔子が軽口、冗談を言っている所です）皆さんがそう言っているので、私は何の専門家だと言ったらいいのかね、と周りに軽口をたたいたと云う所です。私は御者がいいかね、弓を射る射手かね。私は人様を乗せる御者があっていると思うよ。

周りの門弟は、先生は学問を教えるのが専門なので、御者になる事はないでしょうという子弟間での軽口たたきと云う感じがします。学問で身を立てている学者先生が、あまりにも固くて一つの事に集中していると「先生、何か違う事をおやりになったらいかがですか」という子弟間の情景が頭の中に浮かびます。

3　子曰く、麻冕は礼なり。今や純なるは倹なり。吾は衆に従わん。下に拝するは、礼なり。今 上に拝するは泰なり。衆に違うと雖も、吾は下に従わん。

麻冕は冠です。昔のやり方で拵えた冠、麻布で相当丁寧に作っている冠です。
純は絹糸、倹は倹約です。下にというのは、御殿の下に降りてという事です。泰は驕り高ぶりです。

古式にのっとって大変な思いで作るけれども、今風の冠は絹糸で、倹約です。大衆のやり方は絹糸で倹約して作っているから、簡単に拵えられる。私は大衆のやり方に従っ

て簡単で倹約した冕を使おうと孔子は言っています。御殿の下に降りてお辞儀をすると云うのが礼儀なので、私はこれに従って君主から招かれたら、御殿の下でお辞儀をします。これが私の礼儀です。

今は神に拝する場合、御殿の上で拝謁するのが普通になっていますけれど、私はそのように驕り高ぶっていないので、大衆とのやリ方は違うけれど御殿の下でお辞儀をしようと思うと捉えて下さい。

現代でみれば、園遊会などで陛下と同じ場所で話をさせて戴くのは有り難い事だけれども、やはり声をかけられたら氣楽に答えるのではなくて、それなりの礼儀を尽くしてから話をさせて戴くのが良いと云う事です。ただし両陛下が被災した人達の所に、お見舞いで声を掛けるのとはまた訳が違います。

孔子もカチカチの固い人ではなくて、自分のお弟子さん達に軽口をたたいたりする。そういうユーモラスな面もあると受け止めて下さい。